(竹島＝独島論争) www.kr-jp.net

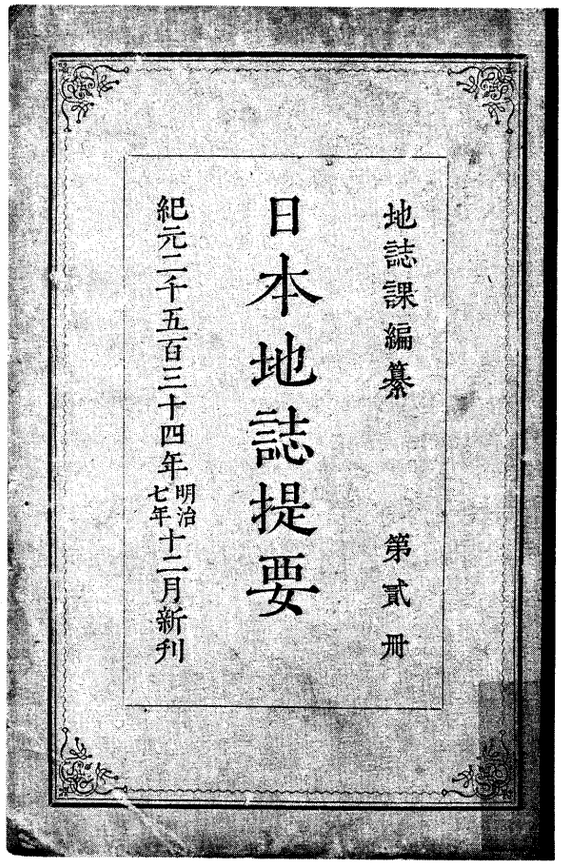
元正院地誌課編

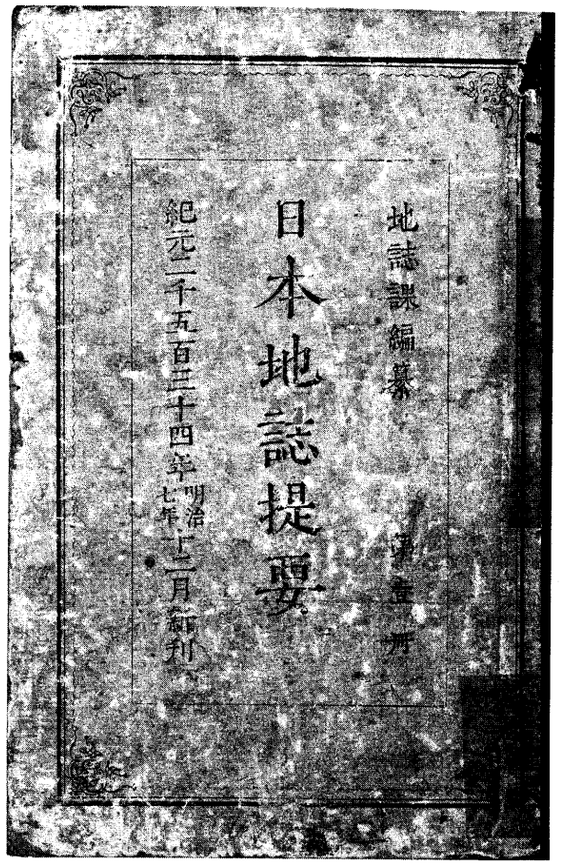
日本地誌提要

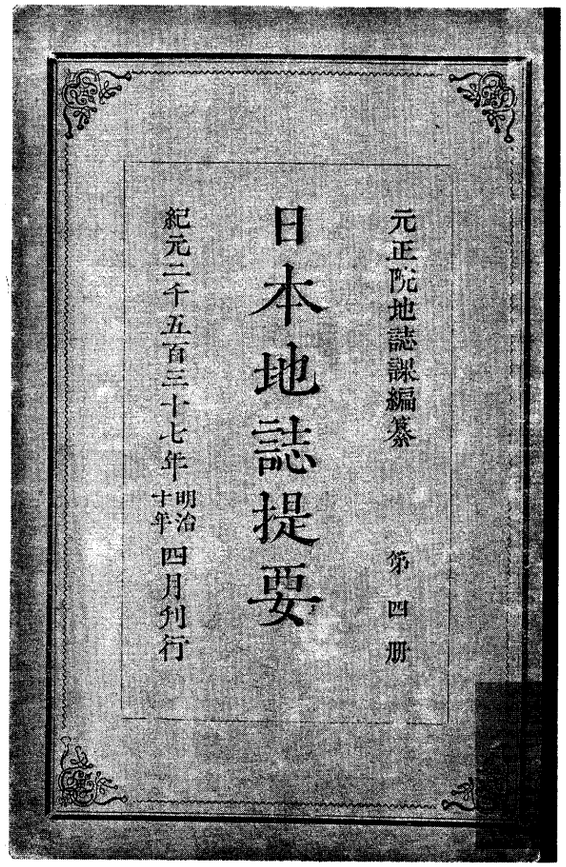
臨川書店刊

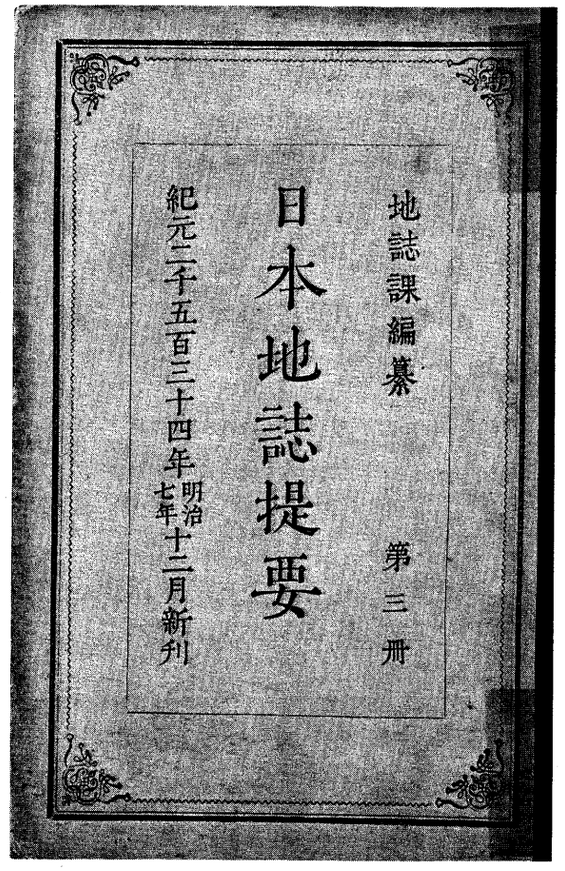
(竹島＝独島論争) www.kr-jp.net

GB641
83





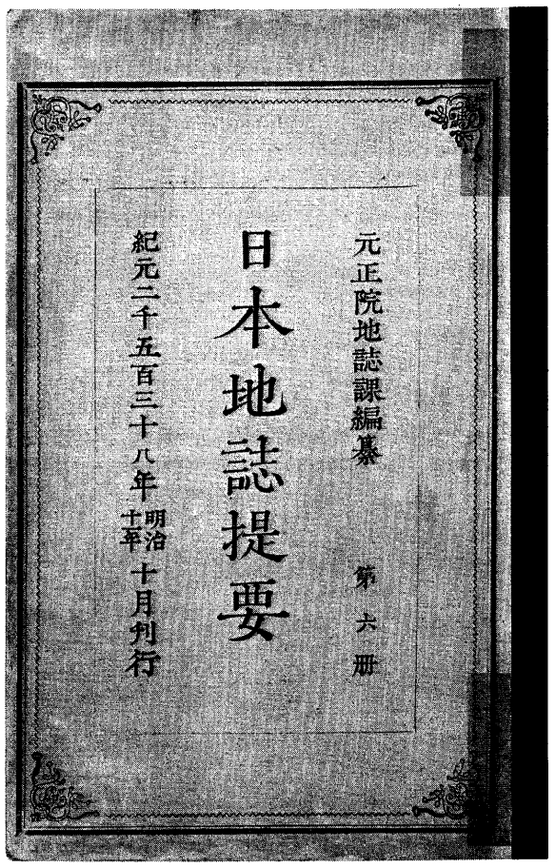


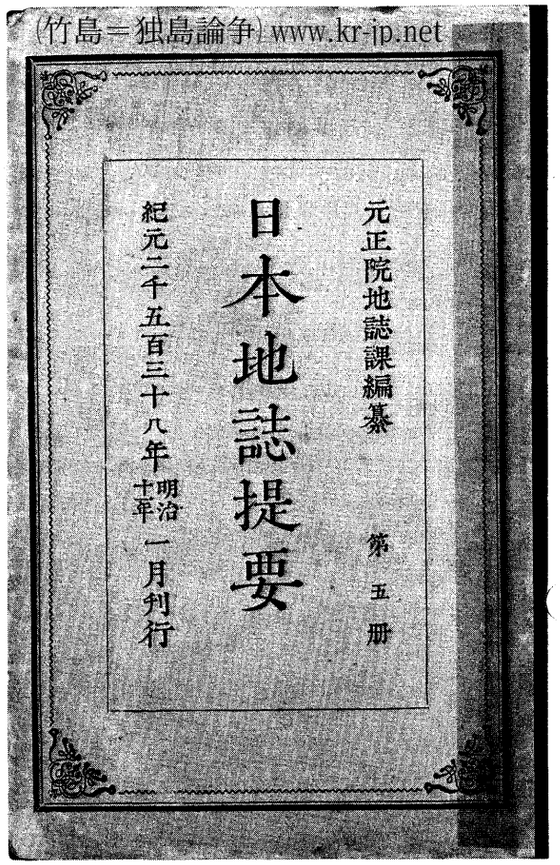


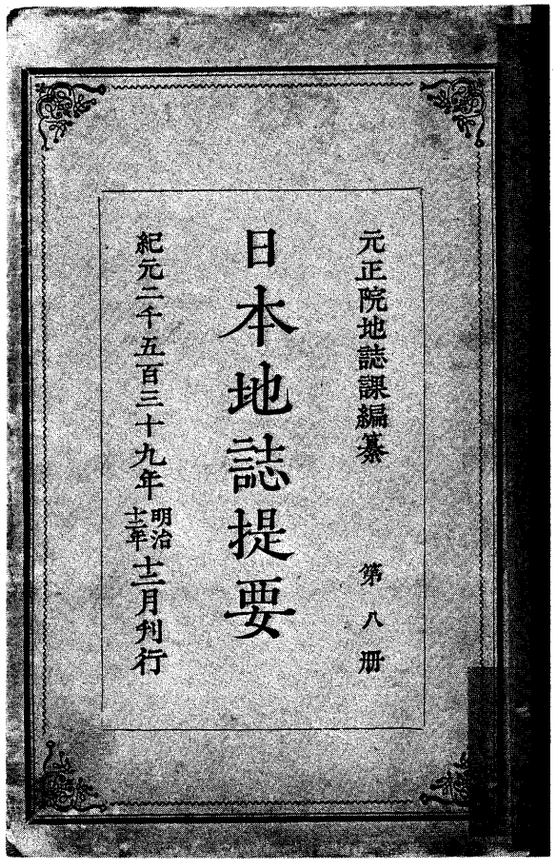
291.09

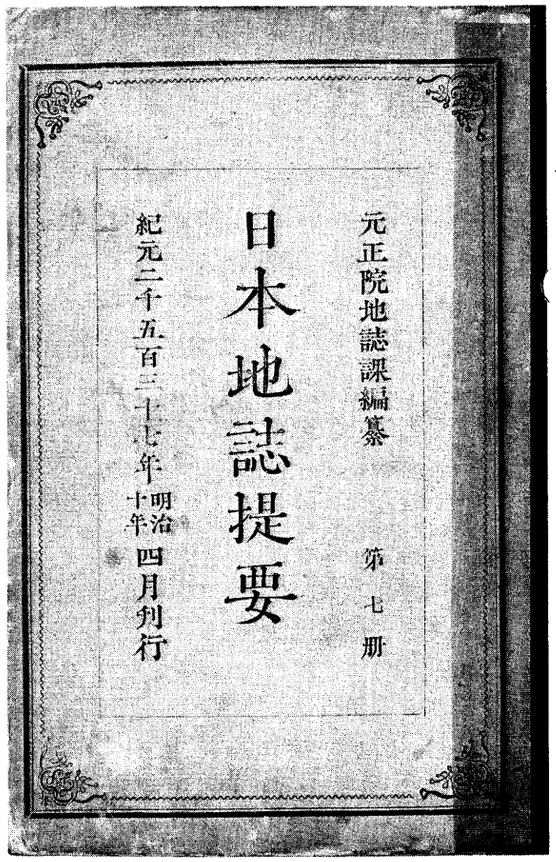
82W59043

(竹島＝独島論争) www.kr-jp.net









「日本地誌提要」初版表紙（第五冊～第八冊）

『日本地誌提要』の価値

本書は明治後刊行された日本最初の統計的辞典的な官撰地誌ともいうべきもので、八冊七十七巻から成る。編者は内務省地誌課、第四冊以後は元正院地誌課となっている。編纂者は少内史塚本明毅以下十人以上に及ぶ官吏である。全巻八冊から成るその内容と発行年月をあげると次のごとくである。

（第一冊）巻之一「総国」・巻之二「二京」・巻之三～七「畿内山城～摂津」まで　明治八年一月刊。

（第二冊）巻之八～二十二「東海道・伊賀～常陸」まで　明治七年十二月刊。

（第三冊）巻之二十三～三十五「東山道・近江～羽後」まで　明治七年十二月刊。

（第四冊）巻之三十六～四十二「北陸道・若狭～佐渡」まで　明治十年四月刊。

（第五冊）巻之四十三～五十「山陰道・丹波～隠岐」、巻之五十一～五十八「山陽道・播磨～長門」まで　明治十一年一月刊。

（第六冊）巻之五十九～六十四「南海道・紀伊～土佐」まで　明治十一年十月刊。

（第七冊）巻之六十五～七十三「西海道・筑前～薩摩、附州南諸島」、巻之七十四「二島・壱岐、対馬」、巻之七十五「琉球」　明治十年四月刊。

（第八冊）巻之七十六～七十七「北海道～天塩、附樺太」まで　明治十二年十二月刊。

これによると七十七巻の完成までに満五年を要していることになり、その間の変化は「追補」として、また誤植等はいずれも適宜巻末に「正誤表」として補正している。このうち第一冊目の巻頭にある「凡例」によると、この原稿は、もとオーストリアでの万国博覧会に出品するために書かれ明治五年十月に起稿、翌年三月に完成したとあるが、うち、何冊までが出品されたのかは不明である。また各州毎に一枚の地図が別に附されたようである。刊行年からみておそらく第三冊までだったと思われる。

つぎに本書の記載内容の特色についてふれると、目次から明らかなように総論、帝都の東京、旧都の京都をはじめにあげ、五

畿七道の国別順になっている点では、明治八年にその初版を出した参謀本部編の『共武政表』と似ている。すなわち明治四年七月にすでに廃藩置県が行われながらも、なお両書とも旧来の五畿七道六十八ケ国の行政区分に従って記述されていることである。なお序でながら内務省に地理局の設置をみたのは明治四年のことである。従って明治五年から起稿された本書では、これらを補う意味で各国別地誌の記載の途中に「県治」なる項目をたて、例えば巻四十五の但馬では、豊岡を説明して〃全州ヲ治シ、丹後及丹波ノ多紀、天田、氷上三郡ヲ兼治ス…県庁。城崎郡豊岡旧陣屋…〃と説明している。また両書とも七道のうち東山道中に磐城、岩代、陸前、陸中、羽前、羽後の六国を入れ、『延喜式』の東山道が近江国以下八国であったのに対して十三国となっている。さらに両書とも壱岐、対馬を二島とし、琉球及び北海道の渡島以下の十二国を入れている点でも同じである。たゞ『共武政表』ではこれが兵用地誌の目的をもっていたゝめ最初に「軍師管区分府県所轄一覧」が掲げられ、ついで戸口、物産のほか水車や、車輌及び船舶の数等が記されているのに対し、本書ではあくまで平和時の地誌書たることで位置、面積、地勢、戸口、沿革（歴史）、耕地面積、物産、名邑、神社、仏閣等をあげている。

また国によって地誌の項目のたて方には変化があり、地域的特質を重んじていることが知られる。例えば内陸国大和についていえば、疆域、形成、沿革、郡数、戸数、人口、田圃、租税、県治、軍鎮、学校、名邑、駅路、山嶽、礦山、牧場、河渠、湖沼、瀑布、温泉、神社、佛寺、物産であるが、島国の淡路についてみると、ほかに港湾、岬角、海峡、島嶼、暗礁、燈台等海岸地形や景観を示す項目がみられる。

がんらい本書は辞典的性格をもつ『和名抄』にみる記載分類にも負うところが多いが、残念ながら郡名や名邑はあっても、郷名が掲載されていない。これら『和名抄』の郷名考証をさらに詳しく行ったものがその後明治三十三年以後十年かゝって完成した当時早稲田大学の史学教授だった吉田東伍の『大日本地名辞書』である。また東京大学理学部の山崎直方、佐藤伝蔵による『大日本地誌』十巻も明治三十六年から大正四年に到る年月に編せられた地理学的地誌書である。またこの明治の終り頃には三十九年に高頭式編の『日本山嶽志』も出版された。

さらに日清開戦の明治二十七年には志賀重昂の『日本風景論』も出版されている。志賀は今日の北大前身の札幌農学校の出身者であり、同校は明治九年の設立である。

いずれにせよ本書が出版された明治十年前後のこの日本地誌書には朝鮮半島も台湾も記入されず敗戦後三十数年の現在の日本の国土と同一であって、私は本書をみるたびにまた別な感慨にうたれる。

今般、京大文学部国語学国文学研究室編『諸本集成 倭名類聚抄』本文篇（昭和四十三年）、『同』外篇—邨岡良弼著『日本地理志料』（昭和四十一年）、『同』索引篇（昭和四十三年）の三冊を出版した臨川書店がこの『日本地誌提要』の復刻に当りその序文を私に求められた。歴史地理学徒である私にとって『倭名抄』はつねゞ〳〵使用の書物であり、明治三十六年刊の『日本地理志料』もまた地名考証には欠かせないものであることを知っている。その御縁もあって喜んで本書の序文を引きうけることにした。

なお、復刻にあたっては初版原寸より凡そ28％縮印し、一巻本に合冊するとともに、新たに目次をかゝげ、新ノンブルを付して披覧の便を計った。また資料提供の趣旨から、本文中の誤字・脱字などには意図してふれず、総て原本を忠実に影印するにとゞめた。

昭和五十七年九月

京都大学名誉教授
文学博士
藤岡謙二郎

(竹島＝独島論争) www.kr-jp.net

目次

凡例……三
目録……五
巻一　総国……一〇
二京
巻二　東京……一五
京都……一七
畿内
巻三　山城……一九
巻四　大和……二四
巻五　河内……二三
巻六　和泉……二五
巻七　摂津……二九
追補……四六
東海道
巻八　伊賀……四七
巻九　伊勢……五〇
巻一〇　志摩……五七
巻一一　尾張……六〇
巻一二　三河……六五
巻一三　遠江……六九
巻一四　駿河……七四
巻一五　甲斐……七九
巻一六　伊豆……八四
附　小笠原島……九〇
巻一七　相模……九二
巻一八　武蔵……九九
巻一九　安房……一〇八
巻二〇　上総……一一
巻二一　下総……一一五
追補……一二三
巻二二　常陸……一二三
追補……一二九
東山道
巻二三　近江……一三〇
巻二四　美濃……一三六
巻二五　飛騨……一四二
巻二六　信濃……一四六
巻二七　上野……一五五
巻二八　下野……一六二
巻二九　磐城……一六九
巻三〇　岩代……一七八
巻三一　陸前……一八七
巻三二　陸中……一九五
巻三三　陸奥……二〇一
巻三四　羽前……二〇七
巻三五　羽後……二一五
追補……二二三
正誤……二二三
北陸道
巻三六　若狭……二二四
巻三七　越前……二二七
追補……二三三
巻三八　加賀……二三四
巻三九　能登……二三九
巻四〇　越中……二四四
巻四一　越後……二四九
巻四二　佐渡……二六一
追補……二六五
山陰道
巻四三　丹波……二六五
巻四四　丹後……二七〇
巻四五　但馬……二七四
巻四六　因幡……二七八
巻四七　伯耆……二八二

巻四八　出雲……二八八
巻四九　石見……二九四
巻五〇　隠岐……二九九
山陽道
巻五一　播磨……三〇三
巻五二　美作……三〇九
巻五三　備前……三一三
巻五四　備中……三一八
巻五五　備後……三二三
巻五六　安芸……三三一
巻五七　周防……三三九
巻五八　長門……三四五
追補……三五一
正誤……三五三
巻五九　紀伊……三五三
巻六〇　淡路……三六四
巻六一　阿波……三六七
巻六二　讃岐……三七三
巻六三　伊予……三八〇
巻六四　土佐……三八八
追補……三九六
南海道
正誤……三九六
巻六五　筑前……三九七
巻六六　筑後……四〇五
巻六七　豊前……四一〇
巻六八　豊後……四一五
巻六九　肥前……四二三
巻七〇　肥後……四三三
巻七一　日向……四四三
巻七二　大隅……四五〇
巻七三　薩摩……四五五
州南諸島……四六一
二島
巻七四　壱岐……四六四
対馬……四六七
巻七五　琉球……四七一
追補……四七七
巻七六　北海道……四七七
渡島……四八〇
後志……四八二
胆振……四八四
石狩……四八六
西海道
巻七七　天塩……四八八
日高……四八九
十勝……四九〇
釧路……四九一
根室……四九三
北見……四九四
千島……四九六
附樺太……四九七
追補……四九八
正誤……四九九

上表　一

上日本地誌提要表

少内史兼地理寮五等出仕正六位臣明毅等恭承

旨纂修日本地誌提要告成。謹奉

表上

進者。伏以。體國畫疆。施治之本。建官分職。成化之方。維昔。

神皇創基。

聲教所覃。蜻洲謳歌率服。

列聖纘緒。

威令遐布。鰈域梯航來庭

上表　二

峻德格天。

世守

聖人之大寶。

至公無外。兼

徴文獻于隣邦。自

豐崎朝廷。迨

藤原御極。

稽古準今。

因宜酌俗。建道國郡而經地。須租庸調以賦民。國司郡領。充守

上表　三

牧之任。府帥鎮將。養干城之兵。

歴世守成。萬方無事。

政謐刑措。年豐民殷。夫唯一盛一衰。有泰有否。自鎌倉。洎室町。

武人跋扈。綱紀大壞。

天步艱難。干戈相尋。霸者踵興。時雖小康。

王風未競。世昧大義。土地人民。牧伯占爲己有。

憲章禮典。

朝廷徒講虚文。恭惟

天皇陛下。

上表　四

英姿天挺。

偉畧神授。

德媲於

難波之聖。

功配于

滋賀之朝。藩封已徹。

重離徧照海寓。

縣制維新。萬姓同仰

聖明。流鬼鼇郷之俗。咸蒙

(竹島ー独島論争) www.kr-jp.net

ヿ發シ。吉賀川ニ入。高九丈。幅六間。同村。釜瀑。中瀑。掛橋天狗瀑等アリ。

温泉

小屋原。安濃郡。泉質硫黄泉アリ。諸小瘡ニ宜シ。

志學。同郡。泉質治効同上。

温泉津。邇摩郡。泉質礬硫鹽氣ヲ混ス。逆上。眼疾。疝氣。痔疾。疥癬等ニ宜シ。○同所。泉質硫鹽鐵硝ノ四氣ヲ混ス。疝氣。脚氣。手足麻痹等ニ宜シ。

福光下村。同郡。泉質硫鹽氣ヲ混ス。微温。疥癬等ニ宜シ。

天河内。同郡。泉質清潔。些ノ臭氣アリ。黴瘡。陰癬。留飲。筋骨拘攣等ニ宜シ。

有福。那賀郡。泉質硫氣アリ。逆上頭痛ニ宜シ。

湾港

大浦。邇摩郡。磯竹村。東西貳町三拾七間。南北三町貳拾六間。深拾仞。西北ニ向フ。

温泉津。同郡。温泉津村。東西貳町四拾三間。南北拾町。深拾貳仞。西北ニ向フ。

外浦。古千江浦ト云。那賀郡長澤村。東西壹町四拾五間。深拾五仞。西北ニ向フ。

瀬戸島。同郡濱田浦ノ西北。東西三拾貳間。南北四拾貳間。深拾貳仞。西北ニ向フ。

長濱浦。同郡長濱村。東西貳町四拾貳間。南北五町。深八仞。北ニ向フ。

岬角

松鼻。邇摩郡馬路村ノ北端。長六町三拾間。

能仁寺鼻。同郡仁萬村ノ東北端。長貳町三拾間。以上二岬。巖石ニ出ツ。

榮螺島鼻。那賀郡長濱浦ノ北端。山巖海ニ出ル七町。

島嶼

櫛島。邇摩郡温泉津。周囲六町五拾間。東西三拾六間。南北貳町三拾間。戸數壹戸。人口八人。

瀬戸島。那賀郡濱田浦ノ西南。凡八町ニアリ。周囲貳拾貳町四拾五間。東西五拾間。南北四町四拾間。戸數五拾四戸。人口貳百三拾八人。以下

馬島。同郡。周囲拾七町五拾三間。東西貳町壹間。南北五町三拾九間。戸數貳戸。人口八人。○箭野島。又矢篦ニ作ル。同郡。周囲拾貳町四拾貳間。東西壹町貳拾間。南北三町。居民十

高島。美濃郡湊村ノ西南。凡貳里貳拾四町。東西三拾町。南北拾五町。戸數七戸。人口三拾五人。

燈臺

櫛島。邇摩郡。

馬島。那賀郡。以上二所。新築未成。

萬年鼻。同郡外浦。舊置。

日本地誌提要卷之四十九

半紙。那賀郡美濃郡。**漆**。邑智鹿足郡。**蠟**。各郡。**桐油**。邇摩郡智郡。**魚油**。那賀郡諸浦。

葛粉。邑智郡西田村。鹿足郡津和野等。**瓦**。那賀邇摩二郡。**石細工**。邇摩郡温泉津。福光。天河内。仁萬村。

神社

物部神社。國幣小社。○安濃郡川合村。字摩志摩城上神遷命ヲ祭ル。以下三社。創建年月未詳。

社。縣社。○邇摩郡佐摩村。大物主神ヲ祭ル。

石神神社。同上。○那賀郡淺井村。

多鳩神社。同上。○同郡神主村。事代主神ヲ祭ル。貞觀三年辛巳九月。大和高市神社ノ神ヲ奉祀ス。

三宮神社。同上。○同郡黑川村。天石門彦神ヲ祭リ。健御名方神ヲ合祀ス。承和中創建。

柿本神社。同上。○美濃郡高津村。柿本人麻呂ヲ祭ル。創建年月未詳。

佛寺

滿行寺。邇摩郡天河内村。眞宗。僧照西開基。永祿五年壬戌創建。寺域四百四拾四坪。

龍雲寺。那賀郡蘆谷村。禪宗。僧無端開基。弘和二年壬戌創建。寺域七百七拾三坪。

萬福寺。美濃郡上本郷村。時宗。正和中僧隨雷創建。寺域千三百八拾六坪。

永明寺。鹿足郡後田村。禪宗。僧初性建。寺域千三百六拾七坪。

日本地誌提要卷之五十

隱岐

疆域 知夫島ハ。出雲島根郡加賀浦ノ正北壹拾壹里三拾町ニアリ。周囲六里三拾壹町壹拾九間。東西壹里壹拾五町。南北貳拾五町。西島ハ東北一峽ヲ隔テ知夫島ニ對ス。周囲貳拾里貳拾六町五拾六間半。東西三里貳拾町。南北貳里。中島ハ西島ノ東壹拾貳町ニアリ。周囲壹拾六里貳拾壹町壹拾壹間。東西壹里三拾町。南北壹里貳拾四町。以上三島ヲ島前ト云。

島後一島ハ中島ノ東北三里餘ニアリ。周囲三拾里壹拾七町五拾四間半。東西四里。南北四里三拾町。島前海士郡知々井村ヨリ島後穩地郡都萬村ニ至ル。海上直徑四里三町。

形勢 出雲ノ正北ニ位シ。四島嶼ヲ以テ一州トナス。其三小島鼎立スル者ヲ島前ト稱シ。其東北一大島ヲ島後ト稱ス。中間樵嶼相接ス。地質犖确。風俗陋愚。居民農餘漁蜑ニ從事ス。氣候極暑九拾度。極寒三拾度。

沿革 古ヘ國府ヲ周吉郡ニ置。府址。八尾村ノ西ニアリ。建久四年。源頼朝。

物產

礜石。邇摩郡銀山。下同。

無名異。

薯蕷。邑智郡粕淵村等。

甘薯。安濃邇摩那賀美濃四郡。

蕪菁。安濃郡志學村。

山葵。鹿足郡田野原村。安濃郡池田村。美濃郡紙祖村。

麻。邑智郡。各郡。

藍。各郡。下同。

茶。

楮。那賀美濃鹿足三郡。

柿。各郡。

栗。

棕櫚。桐。美濃邑智鹿足三郡。

椎蕈。美濃郡四見村。紙祖村。

香蕈。那賀郡下同。今市村。邑和布。那賀郡海苔。邇摩郡温泉津。美濃郡高島。及諸浦。智郡井原村。

蜂蜜。鹿足美濃二郡。

年魚。江川高津川。アマサキ魚。波根湖。

鯨。那賀郡及諸浦。下同。

鯖。**鰯**。**鰯**。**鱈**。**干鰒**。**干鯰**。**鹿皮**。那賀鹿足二郡。

牛皮。那賀郡淺井村。鹿足郡後田村。

絲。邑智那賀鹿足三郡。

山繭絲。那賀郡。

木綿。同郡濱田。

扱苧。邑智美濃二郡。

紙布。各郡。

竹島一独島論争 www.kr-jp.net

全島ヲ以テ佐々木定綱ニ授ク。尋テ其弟義清ヲシテ。出雲守護ヲ以テ兼領セシム。承久三年。後鳥羽法皇。北條義時ヲ討シテ克タス。義時。法皇ヲ島前海士郡海士村森里ニ遷シ。後十八年ニシテ崩ス。元弘二年。北條高時。後醍醐天皇ヲ知夫郡別府村或ハ同郡知夫湊。亦ニ遷シ。皇居ノ址アリト云。義清ノ玄孫清高ヲシテ之ヲ監護セシム。明年。天皇伯耆ニ還幸シ。王師四起シ。北條氏亡ヒ。出雲守護驪冶高貞ヲシテ守護ヲ兼ヲシム。高貞斃死ノ後。足利尊氏。之ヲ佐々木高氏ニ加賜ス。正平中。山名時氏。全島ヲ畧取シ。之ヲ其孫氏之ニ傳フ。元中七年。將軍義滿。氏之ノ封ヲ收メ。其弟滿幸ニ授ク。既ニシテ義滿滿幸ヲ誅シ。再ヒ之ヲ高氏ノ孫高詮ニ賜フ。高詮。島ノ豪族隱岐氏（藏清ノ裔孫）ヲ以テ守護代トシ。周吉郡宮田ニ居ラシム。大永天文ノ際。同族島前島後ニ分據シテ鬪爭ヤマス。隱岐清政。甲尾（カブトノヲ）（古府ノ別稱）ニ城キ。援ヲ尼子經久ニ乞テ。島内ヲ平定シ。終ニ其麾下ニ屬ス。孫爲清ニ至テ尼子氏亡ヒ。毛利元就ニ附ス。永祿ノ末。尼子勝久。恢復ヲ圖リ。故黨ヲ募ル。爲清之ニ應シ。兵敗レテ自殺シ。其弟清家代リ立ツ。天正十年。從子經清ニ弑セラル。毛利氏ノ兵來リ伐チ。經清ヲ誅シ。成ヲ八尾ニ置キ。後吉川廣家ヲ分封ス。關原役畢リ。德川氏。廣家ノ封ヲ收メ。堀尾吉晴ニ加賜ス。孫忠晴卒シテ封絶ユ。京極忠高之ニ代リ。嗣ナク國除シ。松平直政ニ命シテ。島事ヲ管攝セシム。王政革新。鳥取藩ヲシテ之ヲ管セシメ。尋テ隱岐縣ヲ置。既ニシテ廢シテ大森縣ニ併セ。更ニ島根縣ニ併セ。又改テ鳥取縣ヨリ兼治ス。

郡數

總四郡。村數六拾壹。町數壹。

知夫。島前西島。及知夫里海士。島前ノ中ノ島ニシテ。知夫島ヲ云。○村數五。海士。島前ノ東ニアリ。以上二郡ヲ島前ト稱ス。周吉。島後ノ東北隅。西穩地ニ接ス。○村數三拾貳。町數壹。穩地。島後ノ西隅。周吉ノ西。○村數壹拾六。

戶數

五千九百三拾五戶。內寄留壹拾零戶。

社。貳百壹拾六戶。○寺。舊四拾六宇アリ。明治六年一月悉ク之ヲ廢ス。

人口

貳萬八千七百六拾三人。男。壹萬四千五百四拾三人。內寄留貳拾七人。○女。壹萬四千貳百貳拾零人。內寄留八人。

外他出寄留壹拾三人。男。壹拾零人。○女。三人。

田圃

四千零三拾八町六段零畝三步。草高。壹萬貳千五百六拾貳石九斗零升七合。

租稅

總貳千五百三拾五石壹斗五升九合。

正租。米。壹千七百三拾六石貳斗壹升貳合。○雜穀。五百七拾壹石九斗九升貳合。此米。四百四拾三石六斗五升六合。○金納。三圓五拾七錢。此米。壹石四斗貳升九合。

雜稅。米。七拾三石五斗零升九合。○金納。七百零圓六拾三錢四釐。此米。貳百八拾零石三斗五升三合。

縣治

全州。鳥取縣ヨリ兼治ス。

支廳。周吉郡八尾村。北緯三拾六度壹拾壹分。西經六度貳拾七分。○東京。貳百三拾八里三拾三町四拾八間。○京都。百六里三拾四町貳拾九間。○本廳鳥取。四拾八里三拾四町貳拾九間。○島根縣。貳拾六里拾町。市坊三。東西凡四町。南北凡六町。戶數五百貳拾四戶。人口貳千貳百三拾六人。八尾目貫（メヌキ）二村宇屋町（ヤ）ヲ總稱シテ西郷港ト云。

軍鎭

第四軍管大坂鎭臺ニ屬ス。

學校

第四大學區ニ屬シ。中學未置。小學合三拾七所。知夫郡拾所。○海士郡六所。○周吉郡拾三所。○穩地郡八所。伯耆（ホウキ）郡。直徑凡拾八里。海路。西郷（サイゴウ）港。周吉郡。直徑凡貳拾里三拾町。伯耆境浦（サカヒウラ）。會見郡。出雲。西郷港。直徑凡拾八里拾貳町。出雲美保關（ミホノセキ）。島根郡。○知夫郡。海路。徑拾四里貳町。知夫里村ヨリ直

山嶽

燒火山（ヤケビヤマ）。知夫郡美田村ノ內波止浦ヨリ貳拾壹町。赤平山。同郡知夫村ノ內宇類美ヨリ凡九町許。後醍醐天皇假行在ノ地ナリト云。大滿寺峯。一名摩尼山。周吉郡有木村ヨリ壹里拾五町。北ニ鷲嶺。葛尾二山アリ。山脈皆相連ル。横尾山。穩地郡那久村ヨリ壹里八町。

礦山

鐵山。周吉郡中村大平山。試鑿。

瀑布

壇鏡瀑。穩地郡那久村横尾山ニアリ。高凡拾七丈。幅五尺。下流壇鏡川トナリ。西北流シテ海ニ入。那知瀑。同郡油井村。高凡三拾丈。幅四間。下流那知川トナリ。西北流シテ海ニ入。

港灣

知夫。知夫郡知夫里ノ南。東西凡貳町。南北凡六町。深凡拾壹仞壹尺。南少東ニ向フ。浦郷。同郡西島。東西凡五町。南北三町。深凡拾壹尺。南少東ニ向フ。知々井。海士郡。東西凡五町。南北凡八町。深凡拾六仞壹尺。南少東ニ向フ。西郷。周吉郡。東西凡貳拾五町。南北凡七町。深凡拾仞。南少東ニ向フ。加茂浦。同郡。東西凡三町。南北凡拾五町。深凡五仞貳尺。南ニ向フ。福浦。穩地郡。東西凡七町。南北凡八町。深貳仞四尺ニシテ九仞貳尺ニ至ル。西北ニ向フ。

岬角

長尾鼻。知夫郡西島ノ西端。知々井岬。海士郡東端ノ山ナリ。西郷岬。周吉郡東南ニ白島鼻。同郡西村ノ西北隅ニシテ。島後ノ北端ナリ。那久崎。穩地郡西南角ナリ。

海峽

赤灘迫戶。知夫郡西島知夫島ノ間。南岸ハ知夫村ノ內字類美。北岸ハ同郡浦郷村ノ內美田部。兩岸相距ル凡六町。長凡貳拾町餘。

島嶼

島津島。知夫郡知夫里ノ南。貳町ニアリ。周囲貳拾九町。五拾壹間。東西五町。南北九町。松島。一名島山。海士郡豐田村ニ屬ス。中島ノ東。拾八町。周囲壹里九町四拾四間。東西七町。南北拾三町。大森島。穩地郡津戶村ニ屬ス。松島ノ北。貳拾町。周囲貳拾五町五拾七間。東西七町。南北五町。○本州ノ屬島。知夫郡四

(竹島＝独島論争) www.kr-jp.net

拾五。海士郡壹拾六。周吉郡七拾五。穩地郡四拾三。合計壹百七拾九。之ヲ總稱シテ隱岐ノ小島ト云。○又西北ニ方リテ松島竹島ノ二島アリ。土俗相傳テ云フ。穩地郡福浦港ヨリ松島ニ至ル。海路凡六拾九里三拾五町。竹島ニ至ル海路凡百里四町餘。朝鮮ニ至ル海路凡百三拾六里三拾町。

暗礁

赤灘。知夫郡知夫村宇類美ウグイガ岬ヨリ西少北ニ出ツ。東西貳間。南北四拾間。深三尺ヨリ貳仞ニ至ル。

二夫里。同村ノ内。二夫里居越ノ南貳町拾五間ニアリ。東西拾五間。南北壹町拾間。深三尺ヨリ貳仞ニ至ル。

浦郷。同郡浦郷村ノ内珍崎琵琶首ノ東北凡貳町貳拾間ニアリ。方壹町餘。深壹仞ヨリ貳仞ニ至ル。

加茂港口。周吉郡加茂村神尾的鼻ノ東南壹町ニアリ。東西貳拾五間。南北三拾間。深五尺。

水若酢命神社。國幣中社。○穩地郡一之宮村。水若酢命神社。縣社。○周吉郡總社村。玉若酢命ヲ祭ル。創建年月未詳。天武天皇御宇創建。

物產

馬蹄石。周吉郡津井村。

榧板。周吉穩地二郡各村。下同。**桑板**。**杉板**。**和布**。各郡。下同。**荒布**。

鯖。各郡。下同。**鰯**。**鰕**。**海參**。**干鰒**。**牛**。**馬**。

ヲ以テ守護トナス。子則祐苔繩城赤穩郡ニ居リ備前ヲ加封シ。其子義則又美作ヲ加賜シ。提封三州ニ跨カル。嘉吉元年。義則ノ子滿祐將軍義教ヲ弑シ。奔リテ城山城揖西郡ニ據ル。將軍義勝。諸將ニ命シテ之ヲ誅シ。本州ヲ山名持豐ニ賜フ。應仁ノ亂。滿祐ノ從孫政則。細川勝元ニ黨シテ。故封ヲ復シ。姫路ニ居ル。尋テ又置鹽飾西郡ニ城キ。之ニ徙リ。同族別所則治ヲシテ。三木ニ居シメ。東境八郡ヲ管シ。小寺豐職ヲシテ。姫路ニ戍セシム。永正十七年。政則ノ嗣義村。其臣浦上村宗ニ弑セラレ。封疆日ニ蹙マル。享祿四年。義村ノ子晴政。村宗ヲ殺シテ故地ヲ復シ。置鹽ニ居ル。子義祐ニ至テ。國勢日ニ衰フ。天正五年。織田信長。豐臣秀吉ヲ本州ニ封シ。西伐セシム。義祐ノ子則房。款ヲ納レ。小寺政職備後ニ奔ル。別所長治。獨秀吉ト相抗スル四年ニシテ亡フ。秀吉。則房ヲ阿波ニ徙シ。全州ヲ併セ。姫路ニ治ス。十三年。木下家定ヲ姫路ニ封ス。關原役畢リ。德川氏。池田輝政ヲ全州ニ封シ。姫路ニ治ス。元和三年。其孫光政ヲ因幡ニ移シ。本多忠政ヲ姫路ニ。拾五萬石。後酒井忠恭。小笠原忠眞ヲ明石ニ。拾萬

日本地誌提要卷之五十一

山陽道

播磨

疆域 東ハ攝津。西ハ備前美作。北ハ因幡但馬。東北ハ丹波。南ハ海ニ至ル。東西凡貳拾里。南北凡壹拾四里餘。

形勢 攝丹ノ山脈其背ニ連リ。以テ山陰ヲ界ス。瀕海ノ地。大抵平衍。且港泊至便ニシテ山陽ノ要津タリ。土壤膏腴。田疇大ニ闢ケ。又魚鹽ノ利アリ。風俗慧敏。柔惰ニ流ル。氣候極暑九拾五六度。極寒三拾貳三度。

沿革 古ヘ國府ヲ飾磨郡ニ置。今飾東郡姫路ノ東國府寺村ナリ。鳥羽天皇ノ時。源季房村上天皇ノ裔ヲ以テ州守ニ任シ。子孫赤松莊赤穩郡ニ居ル。因テ赤松氏ト稱ス。源頼朝。平氏ヲ滅シ。土肥實平梶原景時ヲシテ。本州及美作三備ノ守護ヲ兼シム。建久四年。季房ノ曾孫赤松則景。州守ニ任シ。守護トナリ。白旗城赤穩郡ニ治ス。建武中興。其玄孫則村。勤王ノ功ヲ以テ守護ニ補ス。尋テ事ニ坐シテ罷ラレ。之ヲ新田義貞ニ賜フ。則村遂ニ叛シテ足利尊氏ニ屬ス。義貞西征シ。則村ヲ白旗城ニ圍ミ。克タズシテ歸ル。尊氏則村石。後松平直明。封ス。爾後龍野。初小笠原長次。後脇坂安政。赤穩。初池田輝興。後森長直。林田。建部政長。小野。一柳直次。山崎。池田恒之。後本多忠英。三日月。森長直。後安志。小笠原長興。三草。丹羽薫氏。ノ八藩ヲ建テ。共ニ十藩。王政革新。福本藩ヲ置。鳥取ノ支封。池田德潤。既ニシテ廢シテ縣トナシ。更ニ合併シテ姫路縣ヲ置キ。改テ飾磨ト稱ス。

郡數 總壹拾六郡。村數壹千九百五拾六。町數壹拾貳。

明石。州ノ東南隅ニシテ。東攝津ニ界ス。○村數壹百四拾九。町數壹。

加東。古名加茂。美囊拾四。町。加古ノ西。○村數壹百五拾三。町數壹。

印南。加古ノ西。○村數壹百三拾壹。町數貳。

飾東。印南ノ西。古名飾磨。後世分テ東西二郡トナス。下加茂神崎揖保皆同シ。○村數七拾貳。町數貳。

飾西。南海ニ瀕ス。○村數壹百六拾壹。

美囊。明石ノ北ニシテ。東攝津ニ界ス。○村數壹百四拾九。町數壹。

加東。古名加茂。美囊ノ西北ニシテ。攝津丹波ニ接ス。○村數壹百五拾貳。

加西。加東ノ西印南ノ北。多可。加東加西ノ北ニシテ。丹波但馬ニ接ス。○村數壹百三拾。

神東。古名神崎。加西ノ西。多可ノ南。○村數七拾九。

神西。神東ノ西。飾西ノ東ニシテ。北ハ但馬ニ界ス。○村數六拾九。

宍粟。神西飾西ノ西ニシテ。北但馬因幡美作ニ接ス。○村數壹百四拾七。

揖東。古名揖保。宍粟ノ南。飾西ノ西。○村數壹百四拾壹。

揖西。揖東ノ西。○村數壹百壹拾三。町數貳。

赤穩。揖西ノ西。備前ニ界ス。以上三郡。明石等五郡ニ並ヒ。南海ニ瀕ス。○村數壹百貳拾七。町數壹。

佐用。赤穩ノ北。宍粟ノ西ニシテ。美作ニ界ス。○村數八拾七。

戶數 壹拾五萬六千九百三拾三戶。內寄留四拾七戶。

(竹島＝独島論争) www.kr-jp.net

「日本地誌提要」全一冊

昭和五十七年十月三十日復刻版 発行

定価 九、五〇〇円

編纂者 元正院地誌課
発行者 片岡英三
印刷 明信印刷所
製本 新生製本株式会社

発行所 京都市左京区今出川通川端東入
株式会社 臨川書店
電話(〇七五)七八一―六一六六
振替 京都 七―八〇〇番(ISBN)

8932
ISBN4-653-00782-9
C3025 ¥9500E

落丁本・乱丁本はお取替えいたします